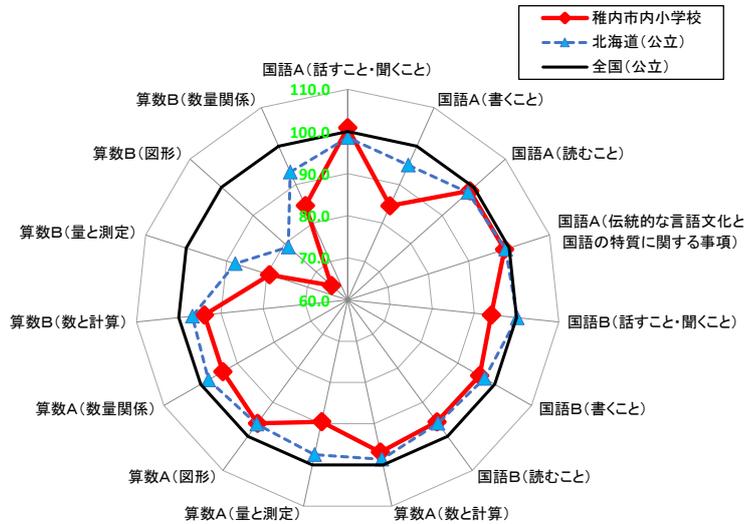


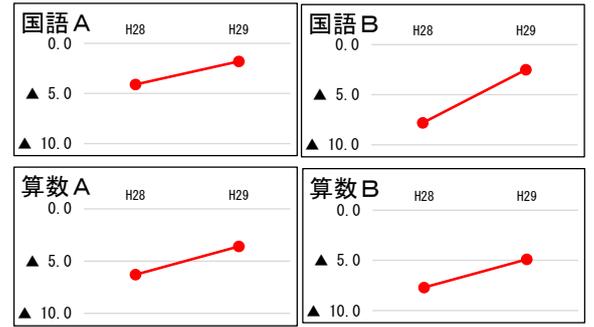
■ 稚内市内小学校の状況及び学力向上策 (学校数:10校、児童数:255人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

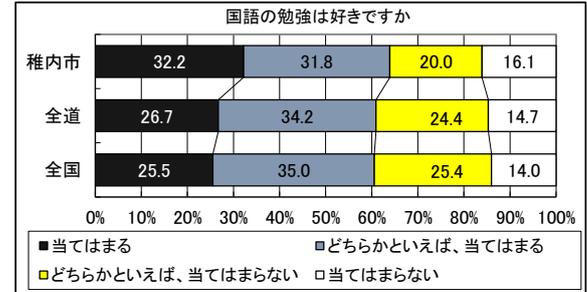


【平均正答率の全国との差の推移】

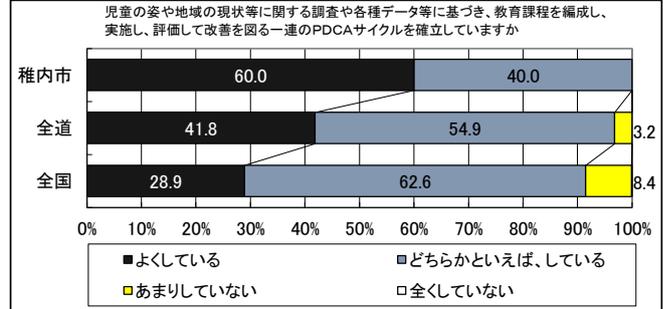
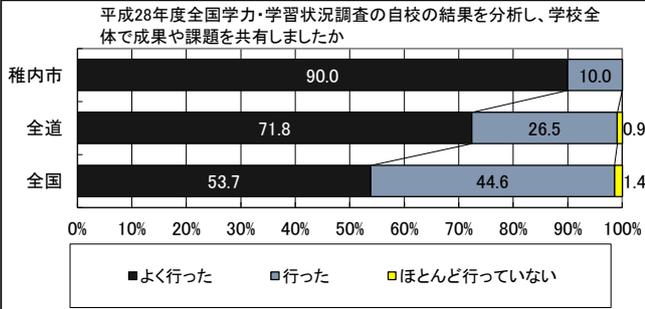


注)「平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化

【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」で全国を上回っている。 ○ 全ての教科において、前年度と比較して、全国の平均正答率との差が縮まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する取組を推進したことにより、すべての教科の平均正答率が、前年度を上回ったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「国語の勉強が好き」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有し、授業改善の取組を進めたことにより、「国語の勉強が好き」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語Aの「話すこと・聞くこと」で全国及び全道を上回ったと考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しました」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立をしている」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 	

【稚内市の学力向上策】

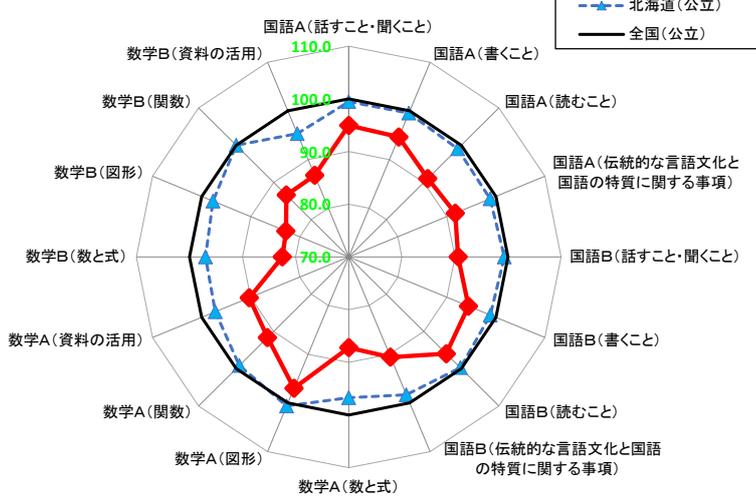
- ◎ 第3、4学年を対象とした学校教育指導員(退職教員等)による「放課後学力グングン塾」の実施
- ◎ 第1、2学年を対象とした市費負担教員の配置による少人数指導の実施
- ◎ 市費による特別支援教育支援員と学校図書協力員の配置
- ◎ ICT機器活用推進
- ◎ 学生ボランティアによる学習支援
- ◎ 授業改善推進チーム活用事業による授業改善の推進
- ◎ 学びの連続性を確保するための小中連携教育の推進

■ 稚内市内中学校の状況及び学力向上策 (学校数:6校、生徒数:300人)

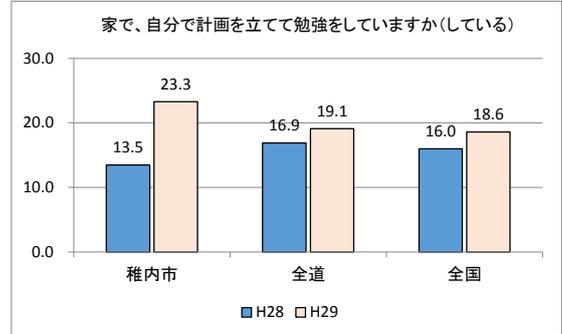
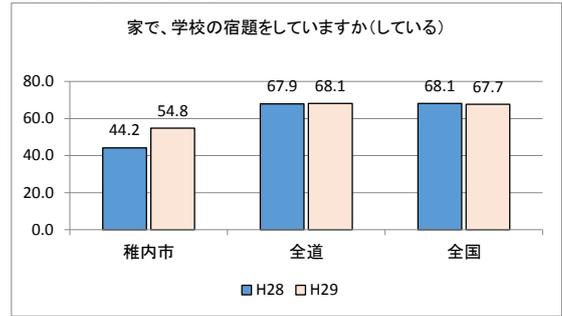
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

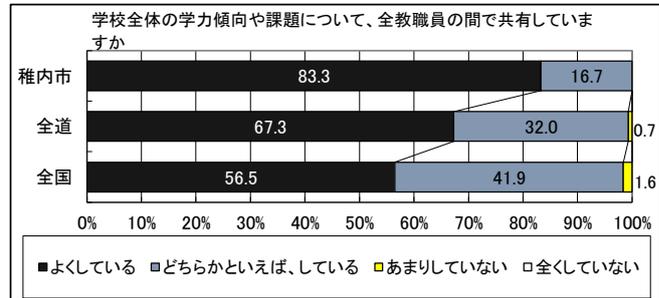
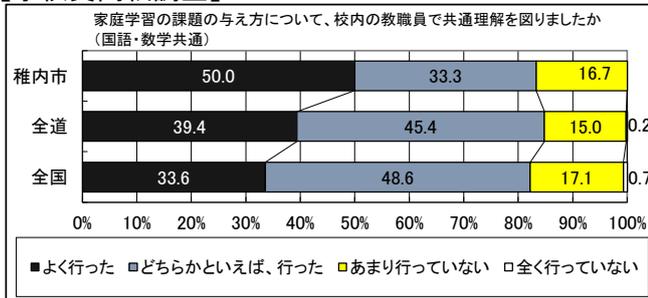
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	分析内容
数学A	○ 数学Aでは、「図形」で全国に最も近くなっている。
生徒質問紙	○ 「家で、学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合が、前年度より増加している。 ○ 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。
学校質問紙	○ 「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

【稚内市の学力向上策】

- ◎ 「夢広がる学校づくり推進事業」による学校独自のテキスト(問題集)の作成などの取組
- ◎ 土曜授業の推進
- ◎ 学生ボランティアによる学習支援
- ◎ 市費による特別支援教育支援員と学校図書協力員の配置
- ◎ 学びの連続性を確保するための小中連携教育の推進